

# 子どものいる情景



森田 廣平  
守屋 多々志  
林 武  
小出 檜重  
和 田 英 作  
小 茂 田 青 樹  
奥 村 土 牛  
小 林 古 径  
上 村 松 園  
菱 田 春 草  
川 合 玉 堂  
伝 長 澤 蘆 雪

2007年7月21日(土)～9月2日(日) 山種美術館 YAMATANE MUSEUM OF ART

●主催・会場：山種美術館 ●開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで) ●休館日：月曜日 ●入館料：一般800(600)円・大高生600(500)円・中小生無料\*( )内は20名以上の団体料金  
\*障害者手帳持参者は600円 ●交通機関：東京メトロ東西線/半蔵門線/都営地下鉄新宿線「九段下」駅2番出口より徒歩12分/東京メトロ半蔵門線「半蔵門」駅5番出口より徒歩10分  
●お問い合わせ先：TEL 03-3239-5911 ●ホームページ：http://www.yamatane-museum.or.jp/ ●住所：〒102-0075 東京都千代田区三番町2 三番町KSビル1階  
図版：伝長澤蘆雪《唐子遊び図》(部分)、重要美術品、18世紀(江戸後期)

# 子どものいる情景

夏休みの特別企画として、子どもをテーマにした「子どものいる情景」展を開催いたします。

かつて子どもは「七つ前は神の子」と言われて大切に育てられ、7歳を過ぎると「小さな大人」とみなされて大人に混じって働きました。本展では子どもを描いた作品を選び、日本画だけでなく、油彩画も含め約50点を展示いたします。

上村松園の《折鶴》では、日本の伝統的な折り紙遊びに興じる若い娘の、その一心に鶴を折る姿が愛らしく描かれています。一方、パリから戻ったばかりのこいでならしげ小出檜重が《子供立像》で描いた長男の姿は、西洋風な家具調度と調和したちょっとハイカラな洋装の男の子であり、そこにはやさしい親の視線が感じられます。それぞれの作家の個性あふれる「子ども」を見る視線、子どものいる情景の表現の違いにご注目ください。

子どもが子どもらしく快活に遊びに興じることができるのは、まわりの大人たちが愛しみ、大事に守っているからこそでしょう。また、子どもたちは深い愛情を感じているからこそ、安心して伸び伸びとしていられるのです。そのような子どもたちの姿を見ることができるのは、私たち大人の喜びでもあります。ぜひこの機会にご夫婦、ご家族でご鑑賞いただければ幸いです。



小出檜重《子供立像》、1923(大正12)年



和田英作《黄衣の少女》、1931(昭和6)年



菱田春草《初夏(牧童)》、1906(明治39)年



鈴木春信《柿の実とり》、1767(明和4)年



上村松園《折鶴》(部分)、1940(昭和15)年頃



林武《少女》、1930(昭和5)年



奥村土牛《枇杷と少女》、1930(昭和5)年



山種美術館 YAMATANE MUSEUM OF ART

次回展覧会：「没後50年 川合玉堂展」9月8日(土)～11月11日(日)